

## 2019年度 日本臨床検査医学会 第3回理事会 議事録

日 時：2019年10月18日（金）13：30～16：30

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事  
宮地勇人、谷直人、木村 聡、松尾収二、吉田 博、大西宏明、長沢光章、下 正宗、  
藤井 聡、萱場広之、東田修二、田中靖人、通山 薫、松永 彰各理事  
高木 康、福武勝幸 各監事（21名）

欠席：古田 耕、柴田綾子、小柴賢洋 各理事（3名）

矢富裕理事長から挨拶があり議事を進めた。

### I 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部報告の2019～2020年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 学術推進化委員会（吉田 博 担当理事）

2019年度学術推進化プロジェクト課題について、18課題の応募があり3課題が採択されたこと、2016・2017年度のプロジェクト4課題の報告が第65回学術集会でなされ、その後、最終報告書の提出、臨床病理誌等への投稿が3課題は終了しているが、1課題からは延長申請があり12月10日までの延長を許可したことが報告された。

##### 2) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

編集委員会を2019年9月30日に学会事務局において開催し、次項について協議した。

今後の当会機関誌「臨床病理」会誌名、サイズについて、評議員からのアンケート結果により、和文誌名：日本臨床検査医学会誌、和文誌サイズ：A4、英文誌名：Laboratory Medicine International、と委員会決定したこと、会誌制作、発送についてのコスト削減について、サイズの変更、発行回数の変更、電子版とした場合の削減額を算出し検討したこと、トピックスとして、検討のうえ up to date シリーズを作成することが報告された。

##### 3) 教育委員会（山田俊幸 担当理事）

「第3回医学生・若手医師のための臨床検査ハンズオンセミナー」が主催：ワークライフバランス委員会、共催：教育委員会、日本臨床検査専門医会にて、8月18日（日）に東京大学医学部附属病院で開催し、学生5名、初期研修医7名が参加したこと、「第4回医学生・若手医師のための臨床検査ハンズオンセミナー」が主催：近畿支部、共催：教育委員会、広報委員会、ワークライフバランス委員会にて、9月8日（日）に大阪大学医学部附属病院で開催したこと、10月5日、横浜での日本臨床検査自動化学会第51回大会共催で、第31回関東・甲信越支部総会との同日開催でRCPCを開催したこと、第66回学術集会における委員会企画で、RCPC 1、RCPC2、Catch Up セミナーを開催予定であること、また、11月24日に、第66回学術集会（岡山）において、RCPC、Catch up セミナー、2 シンポジウムを e-learning で配信予定であること、そして、e-learning（常設）の検討をしていることが報告された。

##### 4) 標準化委員会（東條尚子 庶務担当理事、古田 耕 担当理事欠席のため）

TSHの日本人共通基準範囲決定、およびIFCC適合検査法検証のための研究を獨協医科大学臨床研究審査委員会に提出し3月4日に承認された。7月に、健常人120人の血清検体を採取し10社に送付していたが、その結果報告があり、現在解析中であることが報告された。

#### 5) 精度管理委員会（宮地勇人 担当理事）

精度管理委員会を2019年10月5日に開催したこと、2019年度CAPサーベイ参加・進捗状況、顧客からの問合せ・クレーム等、キット取扱い説明書・回答報告用紙、技術関連、CAPからの通知等の連絡事項、2019年活動報告、2020年活動計画、「臨床検査室グローバルニュース」等について報告された。

#### 6) EBLM委員会（大西宏明 担当理事）

11月23日に、第66回学術集会（岡山）において、委員会企画「大規模検査データの活用に必要な情報処理技術」を開催予定であることが報告された。

#### 7) 利益相反委員会（古川泰司 担当理事 通山 薫 委員長）

役員などのCOI自己申告書（様式3）提出依頼中であること、第66回学術集会中の倫理委員会／利益相反委員会共催の委員会企画「臨床検査医学研究を展開するために…知っておくべきこと、守るべきこと」（共通講習（医療倫理）2単位）を開催予定であることが報告された。

#### 8) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事 吉田 博 委員長）

11月23日、第66回学術集会（岡山）において、委員会企画「臨床検査のガイドライン2018の概要と活用法」を開催予定であることが報告された。

#### 9) 広報委員会（木村 聡 担当理事）

臨床検査振興協議会で進めていたりんしょう犬さんのLINEスタンプが完成し、8月26日よりLINEで公開されたが、収入があった場合は、臨床検査の社会的認知度向上に全額を支出する予定であること、10月3日～5日、JACLaS EXPO 2019に当会ブースの提供があり、当委員会が担当し、第66回学術集会のポスターおよびパンフレット、臨床検査専門医専攻医アピールと、りんしょう犬さんLINEスタンプのポスターを英訳付きで掲示したことが報告された。

#### 10) 遺伝子委員会（宮地勇人 担当理事）

9月29日に東京で日本病理学会との合同の「がんゲノム検査全般に関する指針（仮称）」策定に関するWGを、9月26日に京都で第78回日本癌学会学術総会、特別企画2として、日本癌学会・日本病理学会・日本臨床検査医学会 合同シンポジウム「がんゲノム医療における品質・精度管理」を開催したこと、11月23日に、第66回学術集会（岡山）において、日本医学会連合加盟学会連携フォーラム・シンポジウム（日本病理学会共催）「ゲノム医療新時代に向けて、病理部と臨床検査部の協調体制のあり方」を、そして、同日、委員会を開催予定であることが報告された。

#### 11) 医療安全委員会（吉田 博 担当理事）

11月24日、第66回学術集会（岡山）において委員会を、そして、同日、チーム医療委員会との共催シンポジウム「パニック値を巡る諸問題と日本臨床検査医学会からの提言」を開催予定であること、12月1日に医療安全全国フォーラム2019（京都テルサ）に中谷中委員長が出席予定であることが報告された。

#### 12) チーム医療委員会（東條尚子 庶務理事 柴田綾子 担当理事 欠席のため）

11月22日に、第66回学術集会（岡山）において、委員会企画として「在宅医療における臨床検査」を、また、11月24日、医療安全委員会との共催シンポジウム「パニック値を巡る諸問題と日本臨床検査医学会からの提言」を開催予定であること、パニック値について、運用に関する提言をまとめ、多方面からの意見を踏まえ、医療安全の面から医療現場に反映させる方向で進めていること、そして、在宅医療について、チーム医療として臨床検査の専門家の役割について、さらに協議することが報告された。

#### 13) ワークライフバランス委員会（山田俊幸 担当理事）

8月18日に東大病院で、教育委員会共催で第3回ハンズオンセミナーを実施したこと、また、その際の会計報告、臨床検査振興協議会による「2019年厚労省こども 霞ヶ関見学デー」（2019年8月7、8日）での広報活動に参加・

協力したこと、臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで10件の問い合わせに回答したこと、第66回学術集会（岡山）でワークショップ「臨床検査専門医の育成を考える」（臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会、臨床検査専門医会教育研修委員会共催）を企画、実施する予定であることが報告された。

#### 14) 臨床検査管理医試験実行委員会（東田修二 委員長）

2019年8月4日に帝京大学で、第11回臨床検査管理医講習会・認定試験を臨床検査専門医試験と同時に実施し、年齢別では、20代1名、30代9名、40代13名、50代8名、60代3名の計34名が受験し、32名が合格（3科目合計点が60%以上）し、8月31日に開催された臨床検査専門医・管理医審議会において32名の合格が承認され、学会ホームページに氏名を掲載したこと、試験終了後に受験者に受験動機のアンケート調査を行ない、その結果、臨床検査部門の責任者のため、臨床検査検体管理加算取得のためが上位であったことが報告された。

#### 3. 第66回学術集会報告（岡山2019/11/21(木)～11/24(日)、通山 薫 会長）

2019年11月21日（木）～11月24日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと、テーマ「臨床検査からメッセージを発信しよう！」として開催予定である。一般演題は343演題（口演：275題、ポスター：68）、情報交換会の予定、アクセス、会場案内、学会行事、関連行事、日程表、講演、シンポジウム等、主なプログラムが報告された。

#### 4. 第67回学術集会報告（岩手2020/11/19(木)～11/22(日)、諏訪部章 会長）（東條尚子 庶務理事）

2020年11月19日（木）～22日（日）に、アイーナ（いわて県民情報交流センター：盛岡）において、諏訪部章会長（岩手医大）のもと、テーマ「人工知能（AI）時代の臨床検査」として開催予定であり、AIと臨床検査に関する情報集約と共有化、日本医療情報学会との共催シンポジウム、各科スペシャリストからの提言、一般演題は、他学会企画と重複しないよう原則ポスターとし、その中からトピックとなるテーマを選定してミニシンポジウムを企画予定であること、学会最終日午後に、医療安全関連の講習会、ICD講習会、その他の認定講習会等を企画していることが報告された。

#### 5. 2020年4月専門研修開始の専攻医登録関連のスケジュールについて（山田俊幸 専門医担当理事）

2020年4月専門研修開始の専攻医登録関連のスケジュール予定は、下記の通りであることが報告された。

専攻医登録（一次募集）：2019年10月15日～11月15日

合否判定期間（面接・採用試験、合否判定）：11月16日～12月10日

専攻医採否結果通知：12月16日

専攻医登録（二次募集）：2019年12月17日～2020年1月10日

合否判定期間（面接・採用試験、合否判定）：2020年1月11日～1月31日

専攻医採否結果通知：2020年2月5日

#### 6. 当会からの派遣委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

前回、理事会2019年7月12日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

1) 日本病理学会との合同のがんゲノム検査全般に関する指針策定WG委員（推薦）

2019/8/25に、宮地勇人先生、菊池春人先生、古川泰司先生、前川真人先生、村上正巳先生を推薦。

2) 医療関連サービス振興会 衛生検査所業務・調査指導員（任期：2019/4/1～2022/3/31）

北海道地区：幸村近先生、藤井 聡先生

東北地区：諏訪部章先生、萱場広之先生

関東・甲信越地区：谷直人先生、土屋達行先生、三宅一徳先生

北陸地区：和田隆志先生、木村秀樹先生

中部地区：前川真人先生、中谷 中先生

近畿地区：植山 實先生、山崎正晴先生、中村文彦先生

中国地区：長井 篤先生、横崎典哉先生、北中 明先生

四国地区：桑島 実先生、上岡樹生先生

九州地区：中島 收先生、橋口照人先生

3) 日本専門医機構 基本領域連絡委員会

2019/8/12 に、山田俊幸先生を推薦

4) 日本エイズ学会 エイズ学会推奨法案の検討会（今村班） 大会担当委員

2019/9/29 に、東條尚子先生を推薦

#### 7. My Page の進捗状況について（東條尚子 庶務理事）

My Page 導入のスケジュール、導入および運営費用、会員使用画面等のイメージの資料提示のうえ、報告された。また、演題登録システム導入の検討は学術集会企画委員会で行う予定であることが報告された。

#### 8. 日本病理学会合同 がんゲノム検査全般に関する指針策定 WG 報告（宮地勇人 理事）

次世代シーケンシング (next-generation sequencing: NGS) をはじめとする高精度な技術を用いたゲノム検査、分子病態の明確化と治療法開発の統合による個別化がん治療が推進されている（プレジジョン・メディシン）おり、高精度な技術を用いたゲノム検査の実施においては、その検査工程の複雑さに基づく精度の確保、検査室調整試薬（in house）での検査または検査室で独自開発の検査（laboratory developed tests: LDT）の精度の確保など従来がない課題があるため、日本病理学会と日本臨床検査医学会が連携した WG で、ゲノム検査全般に関して、国民が安心してゲノム検査等を受けることが出来る検査実施体制、検査精度確保に係る体制および両学会間の連携体制整備指針等の策定を目指し、2020 年 3 月末に「ゲノム検査全般に関する指針（仮称）」を刊行することを目標としていることが報告された。

#### 9. 厚生省医政局医師法第十六条の八第一項の意見及び第十六条の九一項に基づく 2020 年度専門研修プログラム等に対する厚生労働大臣の意見及び要請についての回答について（矢富 裕 理事長、山田俊幸 専門医担当理事）

1. 医療提供体制の確保に重大な影響を与える可能性に関すること（医師法第十六条の八関係）

(1) プログラム制については、専門研修プログラムの全期間において研修先が計画されているプログラムのみ認定を行うこと。

(2) 連携施設での研修が3ヶ月未満のプログラムは、必ずその理由を確認し、やむを得ない場合を除いて認定をしないこと。

について、当学会では、研修プログラムの一次審査において、そのとおり確認の上、審査にあっていること、ただし、地域によっては専門研修施設ならびに指導医数が充足していないこと、臨床検査専門医の専門研修の有無が地域医療体制に与える実質的な影響は少ないと思われることから、理由書の提出を求めた上で、上記(1)については研修先が計画通りでなかった場合を許容し、(2)については連携施設での研修期間が短い、または基幹施設単独での研修も許容する方針であると回答した。

2. 研修の機会確保に関すること（医師法第十六条の九関係）

(1) 地域枠医師や育児や介護と研修を両立する医師等のために、カリキュラム制を整備し、日本専門医機構に申請を行うこと。またカリキュラム制で研修が可能な医療機関のリストを学会ホームページで公開すること。

について、

当学会では、この理由のほか、基本領域の専門医を有し、セカンドキャリアとして当専門医を目指す医師にカリキュラム制研修を実際に適用しており、日本専門医機構に当学会が考えるカリキュラム制研修の内容につき既に提出しており、また、プログラム制研修の基幹施設をそのままカリキュラム研修の基幹施設としており、ホームページで公開するが、すでに周知されていると回答したことが報告された。

#### 10. 2020・2021 年度の各支部理事の推薦について（矢富 裕 理事長）

現支部理事の任期は来年3月の定時社員総会までのため、次回理事会（12/20）までに、2020・2021 年度支部理事の推薦依頼がなされた。

#### 11. 2020 年度臨床検査専門医・臨床検査管理医認定試験について（矢富 裕 理事長）

例年は、7月下旬から8月初旬に試験を実施しているが、2020 年度6月～8月は、東京オリンピックや関連学会の学術集会や認定試験が続いているため、臨床検査専門医・管理医審議会で協議のうえ、9月12日～13日に東京で

開催することになったことが報告された。

#### 12. 日本臨床検査同学院報告（宮地勇人 同学院理事長）

内閣府への遺伝子分析科学認定士試験、POCT 測定認定士試験の公益事業追加申請が審査中であること、臨床検査士資格認定試験である① 二級臨床検査士資格認定試験、② 緊急臨床検査士資格認定試験、③ 一級臨床検査士資格認定試験の状況、中級者のための病理技術 STEP UP 講習会開催について、第 35 回「緒方富雄賞」選考の結果、そして贈呈式・記念講演会予定であること、POCT 測定認定士資格認定試験の準備状況、日本臨床検査医学会学術集会での共催シンポジウムとして「臨床検査技師のキャリア形成」を開催することが報告された。

#### 13. JCCLS 報告（矢富 裕 理事長）

JCCLS から、2020 年 1 月 22 日に開催される JCCLS シンポジウム「検体検査の精度・品質に係る医療法等の改正：各界の取組状況と課題」の講師派遣依頼があり、10 月 8 日付で古川泰司先生を推薦したことが報告された。

#### 14. 臨床検査振興協議会報告（矢富 裕 臨床検査振興協議会 理事長）

各種委員会活動報告、法人化の進行状況等が報告された。

#### 15. 体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドライン検討活動報告（矢富 裕 理事長、古川泰司 理事）

3 月 23 日に日本臨床検査医学会と体外診断用医薬品業界での合同 WG 第 1 回会議を開催し、ガイドライン制定に向け依頼側（企業）と実施側（医療機関）双方が周知可能な共通ルールとするため行政通知発出の可否、IRB 審査可能性、臨床性能試験実施に際して留意すべき倫理対応、医師主導による臨床性能試験ガイドラインの検討の要否、その他ガイドライン全般に関する事項について協議した。そのうえで、厚労省、医薬品医療機器総合機構（PMDA）が、合同 WG 第 1 回会議での結果をもとに、2 回意見交換を実施し、今後も、ガイドライン制定へ向けて、企業、当会ともに協力をして進めていくことが報告された。

#### 16. 日本医師会終末期医療に関するガイドライン（改定案）（矢富 裕 理事長）

事前に配布していた日本医師会終末期に関するガイドライン改定案について、意見を求めたが、必ずしも当会と密接に関連するものではないため、日本医師会への回答は見送ることとなった。

#### 17. その他

##### ・台風 19 号の被害者へのお見舞い文掲載について

10 月 12 日から 13 日にかけて発生した台風 19 号により被害を受けた方へのお見舞いのメッセージを、ホームページに掲載予定であることが報告された。

### Ⅲ 審議事項

#### 1. 評議員会費の改定について（矢富 裕 理事長、古川泰司 会計理事）

第 2 回理事会（7/12）において、正会員会費を 12,000 円から 13,000 円へ改定することが承認されていたが、評議員会費については、別途、資料の送付、選挙関係の書類送付等があるため、現在の 1,000 円から 2,000 円に改定する提案があり、承認された。

#### 2. 定款・細則の改定について（東條尚子 会則改定委員会 委員長）

定款・会員資格の喪失に関して、「3 年を超える会費滞納したとき」を、「3 年間の会費を滞納したとき」とすること、細則・機関誌等の配布は、「当該年度の会費を年度内に納入したときに配布される」こと、会費納入時期は「当該年度の 3 月末日」とすること、理事の就任年齢は 63 歳以下であるが、その区切りの日を、「就任時」（定時社員総会の日）から「当該年度の 4 月 1 日」とする改定案が提案され、承認された。

正会員会費を「12,000 円」から「13,000 円」、評議員会費を「1,000 円」から「2,000 円」とする改定案が提案され、承認された。

3. 第 36 回臨床検査専門医認定試験最終会計報告(東京 2019/8/3 (土) -8/4 (日)) (古川泰司 実行委員長)  
第 36 回臨床検査専門医認定試験会計収支報告がなされ、承認された。

4. 第 11 回臨床検査管理医認定試験最終会計報告(東京 2019/8/4) (東田修二 専門医試験実行委員長)  
第 11 回臨床検査管理医認定試験会計収支報告がなされ、承認された。

5. 2019 年度中間事業報告について (東條尚子 庶務理事)  
2019 年度中間の事業報告がなされ、承認された。

6. 2020 年度事業計画 (案) について (東條尚子 庶務理事)  
2020 年度事業計画 (案) の説明がなされ、承認された。

7. 2019 年度中間実績報告・2019 年度補正予算案・2020 年度予算案について (古川泰司 会計理事、矢富 裕 理事長)

2019 年度中間実績は、1 月 1 日～6 月 30 日までの実績額での報告である。

2019 年度補正予算案は、中間実績により確定した項目、再検討した項目の変更、あらたに必要となった項目の追加があった。

2020 年度予算案では、正会員会費と評議員会費の改定による部分を反映したこと、あらたな名誉臨床検査専門医申請料収入の追加、ハンズオンセミナー費用、ホームページ更新費用、My Page 管理費用、会費決済手数料を計上した。

特別会計では、一般会計への補填を計上した。

アジア交流基金については、16 回 ASCPaLM 会議への補助金の計上、学会賞基金については副賞を増額したことが報告された。

以上、審議のうえ承認された。

8. 学会賞委員会からの提案について (松尾収二 学会賞委員会 担当理事)

学会賞応募時の推薦者は当会会員と規定すること、それに伴う規定と募集要項の改訂の提案があり、承認された。

9. 2020・2021 年度試験委員会について (矢富 裕 理事長、山田俊幸 試験委員長)

2020 年 1 月から臨床検査専門医認定試験に関する検討を開始したため、8 月 31 日の臨床検査専門医・管理医審議会でも承認されていた、2020 年度試験委員会委員 (案) が提案され、承認された。

10. 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会委員長について (矢富 裕 理事長)

前回の理事会でも検討されていた AI、IoT、Big データなどを検討する委員会について、名称は統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会が提案され、委員長として大西宏明先生 (杏林大学) が推薦され、承認された。

11. 2020 年度からの名誉会員・功労会員・社員 (評議員) の推薦について (矢富 裕 理事長)

名誉会員、功労会員、評議員の推薦について、資格要件が確認され、次の通り、名誉会員、功労会員、評議員として承認された。

1) 名誉会員として一山智先生

2) 功労会員として北海道支部から家子正裕先生、関東・甲信越支部から窪田哲朗先生、日高宏哉先生、三村邦裕先生、村上純子先生の 4 名、東海・北陸支部から米川 修先生、近畿支部から岡田仁克先生、西郷勝康先生の 2 名、九州支部から鷹野壽代先生、安東由喜雄先生の 2 名、合計 10 名。

3) 評議員として、北海道支部から植木重治先生、関東・甲信越支部から五十嵐岳先生、黒沢幸嗣先生の 2 名、東海・北陸支部から酒井佳夫先生、仁井見英樹先生、渡邊恒夫先生の 3 名、中国・四国支部から三好夏季先生、九州支部から山口宗一先生、合計 8 名。

## 12. 評議員(社員)再任予定者(2020/01/01付)について(矢富 裕 理事長)

2020年1月1日付評議員再任予定者36名が提示された。再任手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本理事会、11月21日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となることを前提のうえ、2020年1月1日付の評議員再任予定者36名について承認された。

## 13. 支部地方会という会名と位置づけについて(矢富 裕 理事長)

「九州地方会」と九州だけ支部総会/例会という名称ではないことについて、九州支部長に確認し、日本臨床検査医学会九州支部総会と日本臨床化学会九州支部総会の合同開催のことを九州地方会という名称としている説明があり、そのままの名称で継続することとなった。

## 14. 2020年度各契約更新について(矢富 裕 理事長)

2020年度、次項の契約更新について確認のうえ承認された。

- ・顧問(弁護士:古川俊治先生、会計:野澤孝志先生)
- ・臨床病理編集製作:宇宙堂八木書店
- ・事務委託:宇宙堂八木書店
- ・外部販売:克誠堂出版
- ・広告募集:日本廣業社、福田商店広告部、学術広告社

## 15. その他(東條尚子 庶務理事)

次回以降の2019年度、2020年度の理事会、定時社員総会予定が報告された。

2019年度第4回理事会:2019年12月20日(金)15:00~17:30

2020年度第1回理事会:2020年3月28日(土)学士会館

2019年度に係わる定時社員総会:2020年3月28日(土)学士会館

## iv 閉会の挨拶(山田俊幸 副理事長)

山田俊幸副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

2019年10月27日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

理事長

矢 富 裕



副理事長

山 田 俊 幸



監 事

高 木 康



監 事

福 武 勝 幸

